

財務の概要

2025年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大以来、低迷している医療収益を改善するため、附属医療施設において、その機能を十分に発揮するための施策に予算を重点的に配分する一方で、法人全体としてはコスト構造の見直し・経常的経費削減による収支改善を基本方針とし、基本金組入前収支差額をマイナス58億円とする予算とした。中期財務計画では3年以内の経常収支差額黒字化を目標として、財務担当理事を推進責任者とする4つ（「経費削減」「医療収入改善」「人事資源」「意識改革」）の学内横断的タスクフォース（リバースプロジェクト）を設置し、附属3病院が横断的に連携しながら、収支改善に向けた施策の検討および実行を進めていった。しかしながら、医療収入の改善、経費の削減効果が現れたのは、年度後半に入ってからとなったため、収支改善目標については下方修正せざるを得なかった。経常収支差額は80億2千9百万円の支出超過となり、4年連続で支出超過という結果となった。

収入面では、医療収入が予算に対して未達となったものの、厚生労働省補正予算による臨時的な補助金収入及び地域医療確保臨時支援事業給付金等を計上したことにより、教育活動収入を一定の水準で確保した。一方、支出面では人件費がベースアップの実施、採用者数の増加、補助金に係る賃上げ対応に加え、学校会計基準改正への対応として賞与引当金繰入額を計上したことにより前年度より大きく増加した。特別収支においては、学校会計基準改正への対応として過年度賞与引当金繰入額を計上したことにより基本金組入前当年度収支差額は102億2千7百万円の支出超過となった。

資金収支においては、翌年度繰越支払資金は201億4千7百万円となり、概ね計画どおりの水準を確保しました。貸借対照表においては、長期借入金の着実な返済を進めるとともに、教育研究及び診療機能の維持向上に必要な施設設備投資を実施しました。一方、当年度収支差額の影響により純資産は減少しており、財務基盤の安定化に向けて、医療収益のさらなる回復及び経費構造の適正化を継続して進める必要があります。今後も、内部統制の強化及びガバナンス改革を着実に推進するとともに、教育・研究・診療の質の維持向上を図りつつ、持続可能な経営基盤の確立に向けた財務改善計画を着実に実行してまいります。